

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	キャリア教育推進事業	会計	一般会計	事業No.	744	施策順No.	29-001
		事業種別	政策・重点	予算科目	10-5-1-14-1		
政策	2 地育力によるこころ豊かな人づくり			課等名	生涯学習・スポーツ課		
施策	29 ふるさと意識の醸成	事業期間	開始	19	終了		

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	市内中学校、飯田市下伊那郡内事業所						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない	
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度		
		職場体験学習を実施する中学校数		10	9	9	9		
		職場体験学習を受け入れる事業所数		300	300	300	400		
意図		連続3日以上職場体験学習を積極的に実施する中学校を増やす 職場体験学習を受け入れる事業所を増やす							
対象をどう変えるか		事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
		市内中学校職場体験学習実施日数(平均・日)	2.8	3.1	3.3	3.2	3.6	3.6	B
		職場体験学習受入れ事業所数(受入れ意思がある事業所・事業所)	345	300	275	300	287	300	
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】	中学校の職場体験学習実施日数は増えた。受入れ事業所数については、新規でも依頼をしたが目標を達成することが出来なかった。								

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	<ul style="list-style-type: none"> キャリア教育は、若者の就職難や、ニート、フリーターや早期離職者の増加が社会問題となっていることを背景に、全国的にその必要性・重要性が認められてきている。 飯田市では、地育力向上連携システム推進計画を策定し、この推進の3つの柱の一つにキャリア教育を掲げ、子どもたちが自分の可能性に気づき、将来の職業に対する希望や勤労意識や自分の夢を実現するための意欲を醸成することを重点目標に、まずは義務教育を中心としたキャリア教育を推進している。 飯田市教育委員会では、H18の飯田西中学校でのキャリア・スタート・ウィーク事業をモデルとして、H19から本格的にキャリア教育の推進に取り組み始め、H20には産学官連携組織「飯田市キャリア教育推進実行委員会」を立ち上げ、H21からは、飯田市キャリア教育推進協議会と改め、産・学・官が一体となって地域へのキャリア教育の定着を目指しているところである。 産業界には、キャリア教育の意義を伝えつつ職場体験学習の受入先の拡大を図り、学校においては、職場体験学習を含めたキャリア教育のあり方についての研究を行い、行政においては、職場開拓等の支援を行うなど、それぞれの役割を明確にしつつ、連携体制での事業推進を図っていく。 		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	1 市内9中学校の職場体験学習のための体験受け入れ職場の確保	1 事業所等の数	1 287
	2 職場体験学習の事前学習としてのガイダンスへの講師派遣	2 講師派遣回数	2 12回
	3 キャリア教育推進協議会によるキャリア教育の推進と研究委員会による調査研究	3	3
	(1)推進協議会、研究委員会の開催	(1)会議開催	(1) 7回
	(2)小中連携のあり方研究のための小中連携協議会の開催	(2)会議開催	(2) 4回
(3)フォーラムの開催	(3)開催数	(3) 1回	
(4)学校・企業・家庭の連携のあり方研究	4	4	
4 小中連携による9年間の一貫したキャリア教育の研究	(1)研究指定校	(1) 小中各1校	
(1)丸山小・飯田西中をモデルに、9年間の小中一貫したキャリア教育の計画策定	(2)会議開催	(2) 4回	
(2)キャリア教育小中連携協議会小委員会の開催	5	5	
5 各中学校代表の体験講座等	(1)受講人数	(1) 11人	
「結いジュニアリーダー育成講座」の実施(各校1~2名)	(2)開催回数	(2) 5回	
23年度実施計画	1 市内9中学校の職場体験学習のための体験受け入れ職場の確保	1 事業所等の数	1 300
	2 職場体験学習の事前学習としてのガイダンスへの講師派遣	2 講師派遣回数	2 18回
	3 キャリア教育推進協議会によるキャリア教育の推進と研究委員会による調査研究	3	3
	(1)推進協議会、研究委員会の開催	(1)会議開催	(1) 7回
	(2)小中連携のあり方研究のための小中連携協議会の開催	(2)会議開催	(2) 4回
(3)フォーラムの開催	(3)開催数	(3) 1回	
(4)学校・企業・家庭の連携のあり方研究	4	4	
4 小中一貫したキャリア教育の実施	(1)研究指定校	(1) 小中各1校	
(1)丸山小・飯田西中の小中一貫したキャリア教育の計画にそった授業・指導の実践と検証	(2)会議開催	(2) 4回	
(2)キャリア教育小中連携協議会・小委員会の開催	5	5	
(3)両校の取り組みの成果を紹介し、他校への普及研究	(1)受講人数	(1) 12人	
5 各中学校代表の体験講座等	(2)開催回数	(2) 5回	
「結いジュニアリーダー育成講座」の実施(各校1~2名)			

3 事業コスト

事業費	特定財源	(千円)	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	特定財源内訳、補足事項
	国庫支出金					
	県支出金		281	236		
	起債					
	その他				9	
一般財源		1,138	777	1,131		
計(A)		1,419	1,013	1,140		
正規職員所要時間			2,000			
臨時職員等所要時間						
人件費計(B)			7,152			
トータルコスト A+B			8,165			

(県)生徒指導・進路指導総合推進事業委託金 10/10

4 事業に対する市民や議会の意見

<ul style="list-style-type: none"> 議会から、「働くことの大切さ、家族が働くことへの感謝の気持ちを知る上で、職場体験日数を5日程度に増やすことや、複数の職場体験をする等の検討が必要」、「地域や公民館活動に関わることで、キャリア教育を幅広くとらえた活動にすべき」との意見をいただいた。 第5次基本構想基本計画推進委員会から、「働くことの大切さを知るよい機会である」「地元で帰ってくる切っ掛けとなる」「親以外の大人とふれあう良い機会である」「地元の産業を知る機会である」「より一層の取り組みを推進されたい」との意見をいただいた。

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	①地域を知る ②地域を誇りに思う	施策の成果指標又はムトス指標	ふるさとを誇りに思っている市民の割合:% この地域に住み続けたいと考えている高校生の割合:%
この事務事業は施策の目的達成にどのよう に貢献しましたか	4年間の振り返り	学校教育において連続3日以上職場体験学習を受け入れ事業所を増やしなが ら積極的に実施していくことは、地育力を活用した子どもたちの体験活 動を推進し生きる力を育む取り組みの一環であり、子ども達にとっては、 職業を通じて地域を知る機会となり、そこで接する職場スタッフの精神に 触れることで、地域への愛着や誇りを醸成することにつながった。		
	後期に向けた課題	年度のまとめとしてのキャリア教育推進フォーラムを、キャリア教育の成 果発表の機会として位置づけ情報の発信をおこなっていく。		
この事務事業の成果を向上させるためにどの ような工夫をしてみましたか	4年間の振り返り	中学校を中心に先行して始まったモデル的な取り組みを参考に、小学 校や高校における取り組みを、段階的に進めていくことで、成果を向 上させることが可能である。		
	後期に向けた課題	職場体験の受入れについて、新規の事業者より受入れの連絡が来るぐ らい定着したものを目指したい。		
コストを削減するためにどの ような工夫をしてみましたか	4年間の振り返り	H19から開始した発展途上の事業であり、今後、更に取り組み拡大を 図っていく段階であるため、事業経費と人件費の削減は困難である。		
	後期に向けた課題	職場体験の受入れ依頼の際、事業所の廃業、移転等の情報を把握し、 郵送料等の削減につとめる。		
受益者負担の程度、市が関 与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	事業主旨から妥当であった。		
	後期に向けた課題	特になし。		
多様な主体の役割の 発揮状況 ①その主体は誰で、 どのような役割を果 たしましたか。 ②その主体が役割を 発揮するために、行 政はどのような働き かけをしてきました か、又は、配慮して きましたか	4年間の振り返り	①キャリア教育の重点的取り組みとして行っている中学生の職場体験 学習においては、飯伊地域内で約300の事業所に受入れ頂いている。 職場体験のコーディネート事業は、学校、行政関係者以外に、企業関係 者、PTA、学識経験者で構成する「飯田市キャリア教育推進協議会」、 学校教諭と企業関係者で構成する「飯田市キャリア教育研究委員会」が 主体となり事業を推進している。 ②教育委員会は、両会議の事務局の立場、リーフレット作成やフォー ラムの開催などの具体的な活動に関わるとともに、中学生職場体験の 受入れ先の開拓支援を通して、キャリア教育の普及推進を行った。		
	後期に向けた課題	飯田市キャリア教育推進協議会を年3回にするなど、成果をお互いに 共有し合い確認していく。 また地育力どっとネットの存在をより多くの方に見てもらい、市の キャリア教育の取り組みについて知ってもらう必要がある。		
全体を通じて	4年間の振り返り	職場体験を通して中学生の意識変化が現れており、社会の一員として の自覚を高め、社会でのルールや礼儀などを、将来に向かってのキャ リア教育の中心を担う中学生の職場体験については、事業所等から一 定の評価を頂いているところである。近年、社会情勢等により、受入 れが厳しくなっている現実もある。		
	後期に向けた課題	昨年度の事業所のアンケートには、生徒の課題意識に欠如が指摘され ているので、事前学習の取り組み等、意識付けが必要である。また 学校だけでなく家庭で理解を深めてもらうことも必要である。キャ リア教育小中連携調査研究事業としてキャリア教育における小中一貫 教育のあり方について研究していく。またその成果を他校へも広げて いく必要がある。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要はありますか	ない	成果指標や目標値を修正する必要はありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	-----------------------------------